

# 情報大TOPICS

Kyushu Institute of Information Sciences

## アイランドキャンパス in 甕島 2017

コンビニひとつない島、でもそこには、あったかい出会いがある



九州情報大学地域情報センターでは、2012年度から毎年9月に甕島（こしきしま）でアイランドキャンパスを実施しています。2017年で6年目になりました。参加学生は毎年10～15名程度、今年は、卒業生2名の参加もあり、教員2名を含めて19名で実施しました。

甕島は鹿児島県薩摩川内市の沖30km、東シナ海に浮かぶ列島です。この島で私たちは島の人達・子ども達と交流を続けています。地域での運動会への参加や小学校・中学校での交流授業などを続けてきました。

地域情報センター長 平田 毅 教授

- 9月28日 出発～夕方 串木野からフェリーで下甕島へ
- 9月29日 島内観光 (1)
  - 海星中学校で実践交流
  - 音楽（吹奏楽）・部活（陸上競技）
  - 夕食：カレー（自炊）
- 9月30日 鹿島小学校運動会に参加・お手伝い
  - サンセットバーベキュー
- 10月1日 瀬々野浦・西山地区運動会に参加
  - （相撲部特製ちゃんこ鍋を提供）
  - 陸上部：準備運動・整理運動のサポート
  - 相撲部：相撲の演武・アトラクション
  - 吹奏楽部：演奏会
  - 打ち上げに参加
- 10月2日 島内観光 (2)～帰途



### 大田 咲綾 さん 情報ネットワーク学科4年（相撲部・南風原高校）

今年が最後の甕島。おじちゃんの言葉が心に残っています。  
「4年間、毎年来てくれてありがとう。おじさんも6年前に島に戻ってきたばかりだけど、本当に毎年来てくれることで元気ももらってたよ。また絶対来てよ。4年間だけなんてさびしいこと言わないでよ。いつでも待っているよ。」

私にとってこの4年間の甕島は、自ら行動し、自ら島の方々と関わっていき、話をしたり聴くことで価値観や物の見方を変えてくれる体験でした。人としても少しですが成長することができたと感じています。私の人生の大きな財産になりました。甕島は私の第二の故郷です。





### 大原 佑介 君 経営情報学科4年（相撲部・柳学園高校）

今年で卒業なので最後の「こしき」でした。今回はいろんな部活学生も参加して、いつもより人数も多いし、うまくまとまらないのでは…、と心配していました。でも、そんなことは1ミリもなく、やっぱり、甌島は、みんなを繋げてくれる島、だなと思いました。なにをするにしても、皆で協力して、自分たち一人ひとりで考えて行動することが出来たと思います。

民宿のおじさん・おばさん、瀬々野浦の人たち、鹿島の竜馬さんと家族のみなさん、みんな感謝してもしきれないぐらい、僕たちの面倒をみてくださり、もうあえなくなるのは、本当に寂しいです。甌島は、僕を育ててくれた島だ、と思っています。山や海は本当に綺麗で、島の人の、暖かさ、ぬくもりは、一生忘れません。

### 吉本 航大 君 経営情報学科3年（相撲部・明德義塾高校）

今回、甌島での活動で感じたことは二つあります。一つは、仲間と協力する大切さです。私はチャンコ鍋の責任者だったのですが、相撲部以外の参加者とも協力してやり遂げられるだろうかと不安でした。いくつかのアクシデントもあったのですが、本当にみんなが手伝ってくれて美味しいチャンコ鍋を完成させることができました。島のみなさんから「去年よりも美味しい!」との声を聞いたときには本当に嬉しかった。

もう一つはやはり島の方々のあたたかさです。「遠いところから来てくれてありがとう」とたくさん声を掛けていただきました。運動会での和やでも熱い雰囲気にも島の人たちから元氣ももらいました。お互いを思いやって助け合っている姿に、地区の人たちの絆を感じました。



### 梶原 愛理 さん 経営情報学科3年（吹奏楽部・精華女子高校）

私は、海星中学校での音楽の実践交流の責任者だったのですが、中学校での事前打ち合わせや仲間との打ち合わせなど、何もかもはじめてで本当に不安ばかりでした。

でも、中学校の先生方も丁寧に打ち合わせをしてくださり、仲間のメンバーも愚痴一つこぼさずついてきてくれて、とても頼もしくありがたかったです。

なによりも、中学校の生徒さんたちが、私たちの話や演奏を本当に真剣に聴いてくれたことは、何物にも代えがたい経験になりました。放課後も音楽室に集まってきて、楽器や吹奏楽、音楽に興味を持ってくれたことも、純粋に嬉しかった。

一つの企画を作ることのむずかしさ、ひとに伝えることの難しさを改めて実感し、得るものが多かった甌島でした。素敵な大学生活での思い出がまた一つ増えました。



## ロボットアイデアソン未来創世物語

### 坂根ゼミチーム 審査員特別賞受賞



2018年1月、坂根ゼミでロボットアイデアソン未来創世物語に出場しました。

ロボット（AI）を使用して、企業の課題を解決するアイデアを出すコンテストで、24チームが参加しました。

坂根ゼミチームは、西鉄電車の課題（ICカードによるデータ収集が上手くいっていないこと）に対して、AIを使用した解決策を提示しました。例えば、西鉄電車で使用される二モカには年齢などの個人情報が入っているのですが、活用できていないようです。坂根ゼミのメンバーは、西鉄電車の課題解決のために提案を実施しました。

西鉄電車の各駅にAIを搭載したロボットを設置し、電車の利用客にロボットがサービスを提供するとともに、利用客の情報をAIが収集するというものでした。

コンテストの結果、坂根チームで審査員特別賞を頂くことが出来ました。賞品として、電子書籍無料アカウント1年分をいただきました。

### 木本 瑞希 君

経営情報学科2年（大分西高校）

「学生として勉強することは、過去のことや既に構築された理論を勉強することが多いのですが、ロボットアイデアソンコンテストでは、未来のことやアイデアの活用方法を勉強することができたので、とてもいい刺激になりました。」

### 鶴 美波 さん

経営情報学科2年（明光学園高校）

「AIの可能性を感じることができました。」

### ミハレス 愛子 シェリー さん

情報ネットワーク学科3年（福岡工業大学短大部）

「緊張しましたが、またコンテストに出たいと思いました。」

### 小柳 圭克 君

経営情報学科2年（熊本中央高校）

「普段学習していないロボットについて企業の人に教えていただき、すごくいい勉強になりました。」

## 熊本県阿蘇郡西原村 第2回復興かわはら祭り に参加しました

写真部

2016年4月に発生した「平成28年熊本地震」で、大きな被害を受けた西原村。2017年8月26日、西原村立河原小学校で、「第2回復興かわはら祭り」が開催されました。

福岡を中心にボランティア活動をしているおじのみなさんが「熊本・九州おじ応援隊」を結成し、そのボランティア支援活動に、本学写真部の学生と副顧問の秋吉浩志准教授が参加しました。

今回はその一環で、お祭りに参加して、さらにその様子を伝えるため、写真や動画を撮影し、主に被災地の今を伝える「伝達ボランティア」活動を行うためのものでした。

みんなで、パエリアやピザを作ったり、また著名な書道家の方も参加して、書道パフォーマンスを実演するなど、祭りの様子を撮影しました。現在も継続的に熊本地震復興支援の活動中です。



竹中 志織 さん  
経営情報学科4年  
(精華女子短期大学)

「熊本の復興ボランティアに参加したのは初めてでしたが、皆さん明るい方ばかりで楽しくお手伝いできました。今回は写真係ということもあり、人物を撮影する難しさを改めて感じると共に、どの模擬店も『皆さんに喜んでほしい』『子どもたちの笑顔が見たい』という思いを持って活動しているということ強く実感でき、とても良い経験になりました。」



稲岡 希良梨 君  
情報ネットワーク学科1年  
(熊本北高校)

「今回参加してとてもいい経験ができました。僕は熊本出身なので一昨年の地震を経験しました。少しずつ復興はしていますが、ボランティアに参加する人が少なくなったことなど、現在の状況がテレビなどで報道されることが少なくなったのを知っていたので、この話を聞いて是非参加して地元の人たちの力になりたい、写真を撮ることで何か他の人に伝えることができればと思いました。」



宮守 史菜 さん  
情報ネットワーク学科1年  
(大分豊府高校)

「今回、私は初めてのボランティア参加で、熊本県に行くのも初めてでした。最初はボランティアに参加している方々や地元の方々と話せるか不安だったり、本当に自分が役にたてるのか不安でした。でも、結論から言うとボランティアに参加してよかったと思えるくらい、とても楽しくて良い体験ができたと思います。」

## 漢字検定準一級に合格しました

嶺川 義斗 君 経営情報学科1年 (佐賀清和学園高校)

「私は九州情報大学に入学してから、中学2年以來の漢字検定に挑戦することを決めていました。大学では、大学基礎総合という科目があり、そこで漢字検定試験の勉強ができ、2級クラスで唯一準1級を勉強し、1級を取得している甘先生の指導のもと、

90分間集中して勤しむことで古文学の学習をすることができ、大変すばらしい時間を過ごすことができました。」

「わずか6ヶ月の勉強期間でしたが、準1級を163点で見事合格し、努力は裏切らないことを証明することができて嬉しかったです。次は1級合格を目標にしますが、甘先生の合格点をはるかに超える数値で合格できるよう頑張ります。」

## 国際会議 SISA 2017 を開催

2017年9月に、画像処理分野において日本人研究者主導の国際会議として有名なSISA(International Workshop on Smart Info-Media in Asia)2017が、本学太宰府キャンパスで行われました。

今回は、タイ、マレーシア、中国などから多くの研究者が太宰府に集まり、太宰府の歴史や文化に触れながら、ご自分の研究や最新の研究動向に関した活発に情報交換を行いました。

また、会議初日には、動画処理分野で有名な大阪大学の尾上先生によるキーノートスピーチが、二日目はロボット関連研究の権威者の一人である北海道大学の宮永先生のキーノートスピーチがあり、内容充実の3日間の会議でした。

会議期間中、九州情報大学の1年生から4年生までの学生がスタッフとして加わり、普段とは違う環境で研究に関する経験をしたことは、学生たちにとって大きな財産になったのではと思います。また、相撲部所属学生の演武や吹奏楽部所属学生のミニコンサートも会議に参加された研究者から大きな声援を受けました。

情報ネットワーク学科長  
車 炳 教授



## 相 撲 部

私たち相撲部は、昨年の西日本選手権大会において7年ぶり



の団体優勝をすることができました。また西日本体重別では13人が全国体重別選手権への切符を手にし、その中の5人が全国で入賞するなどの結果を残すことができました。ほかの大会においても、個人戦で上位に残る成績や、全国学生相撲選手権大会団体ではベスト8。また、アマチュア相撲の最高峰の大会である全日本相撲選手権大会に、九州情報大学相撲部創立以来過去最高の5人が出場するなど、チーム目標も達成することができました。

今年は、西日本選手権大会の二連覇、全国学生相撲選手権大会ベスト8、西日本体重別選手権大会においては、昨年以上の人数で全国体重別に臨むというチーム目標に向かって日々の稽古に精進し、竹石監督の指導のもとチーム一丸となって結果を残したいと思っています。

橋本 幸一 君 経営情報学科3年(楊志館高校)

## 陸 上 競 技 部

1年生の野田と佐々木が、陸上競技部を紹介します。

部員数は、38名(男子30名、女子8名)、出身県別にみると福岡(16名)、熊本(11名)、長崎(4名)、宮崎(2名)、大分(2名)、山口(2名)、鹿児島(1名)です。

今年の主な競技成績は、個人では全国大会出場(男子400mH、女子100m)、団体では九州地区大学体育大会(全九州インカレ・

トラック部門男子総合3位)です。

練習は週4日で、4時10分から7時です。木曜日と日曜日は休みです。練習メニューは、キャプテン・ブロック長を中心に立てられます。

そのほかにイベントとして、春の合宿、新入部員歓迎、秋インカレ打ち上げバーベキュー、冬の宝満山マラソンなどがあります。ほとんどの部員がアルバイトをしています。

陸上競技部員は、主体性(陸上競技・勉強・就職進路の個々の3つの目標)と、自主性(キャプテンを中心とした自由な雰囲気)をもって学生生活を楽しんでいます。

野田 直輝 君 経営情報学科1年(祐誠高校)

佐々木 優歩 さん 経営情報学科1年(田部高校)



九州情報大学 経営情報学部(経営情報学科・情報ネットワーク学科)  
大学院経営情報学研究所(博士前期課程・博士後期課程)

〒818-0117 福岡県太宰府市宰府6-3-1 PHONE 092-928-4000 FAX 092-928-3200